

アメリカ発



最新歯科医療レポート

Vol.07 リポーター:和田圭祐



和田圭祐=1970年5月9日生まれ。広島大学歯学部卒。名古屋大学医学部大学院で医学博士号を取得。米国ハーバード大学大学院で08年6月、歯学博士号取得。米国歯周病専門医。現在ペンシルベニア大学歯学部でインプラント学ディレクターとして教鞭をとる傍ら、インプラントの臨床研究を行っている。2ヶ月に一度帰国し、本院にて治療に携わっております。

インプラント治療はここ数年目覚ましい発展を遂げ、日本の医療界にも急速に広まってきています。その反面、多くのトラブル症例が報告されています。ここ数年の研究では、歯周病があるとインプラントも歯周病になりやすいという事が明らかになってきています。せっかく入れたインプラントを長期的に維持するためには①残っている歯の歯周病を完全になおす②その後も歯周病がおこっていないか定期的にチェックすることが不可欠です。

インプラントも歯周病になる？

写真1は、「インプラントの周りが腫れてグラグラして痛い」と言われて来られた方のもので、中央の歯(インプラント)のまわりの骨が溶けて歯茎が縮み、インプラントの金属の一部が露出しているのがわかります(写真1黄)。さらに隣の歯も歯周病

で歯茎が縮んで根の一部が見えています(写真1青)。最初はインプラントがしっかりと骨に埋まっていますが(写真2橙)、定期検診をせず放っておくとインプラントの周りの骨が歯周病のように溶けてしまい(写真3橙)最後には抜け落ちてしまいます。さらに隣の歯の完治していない歯周病が進行し、骨が以前よりも溶けて



米国歯周病専門医とインプラントの関わり

長期的成功に必要な条件

米国ではインプラントの多くを歯周病専門医が施術しているのはこうした理由からです。歯科インプラント治療は人体に行われる人工臓器のうちで最も安全性の高いものの一つで、比較的安易に行われ、しばらく放っておかれる方も少なくないようです。人工心臓やペースメーカーが入っていて放置できる人は少ないと

なくなっているのが分かります(写真3青)。このケースではインプラント治療をする際に歯周病の治療を全くしなかったため、元々あった歯周病がインプラントの周りに伝搬した可能性があると考えられます。まずは歯周病専門医による定期チェック

思います。歯科インプラントも人工臓器の一つである以上、長期的に成功させるためには、インプラント手術をする前に専門医による歯周病の適切な処置をすることが必要であり、そして、定期的なメンテナンスが不可欠なものであると考えられています。



写真1



写真2



写真3

WADA DENTAL OFFICE



新市・和田歯科医院

— M&K インプラントオフィス福山 —

院長 和田 勝 / アメリカ歯周病専門医 和田 圭祐

福山市新市町新市726-1

(△シバゼロ)

Tel. 0847-52-6480

詳しくは当院のインプラント専用サイトをご覧ください <http://www.wada-implant.net/>